

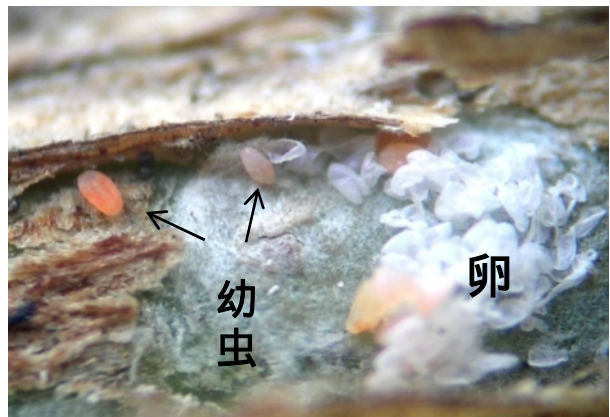
茶害虫の防除タイミングを温度から推定します

茶樹のクワシロカイガラムシは防除がたいへん難しい害虫です。その防除適期はふ化直後の短期間であり、ふ化期の判定には面倒な調査が必要です。虫の生育は温度に影響されるので、気温の推移から生育段階を推定できます。そこで、気温からこの害虫のふ化期を推定する技術を静岡県、京都府、宮崎県と共同で開発しました。（平成14～15年度先端技術等地域実用化研究促進事業）



<クワシロカイガラムシの被害>
発生が多いと茶樹が枯れてしまいます

クワシロカイガラムシは、雌成虫が介殻の下に産卵します。卵の半分以上がふ化した雌成虫の割合が50%になったときが、「孵化最盛期 = 防除適期」になります。



ふ化最盛期の推定法

毎時の気温(10.5 以上の時) - 10.5

→ 1日分の合計 / 24

↓
1月1日をスタートとして日毎に積算する

有効積算温度

↓
287日度になったときが孵化最盛期

(研究成果)

- ・ 県下にはクワシロカイガラムシの発生は年に2回と3回の地域がありますが、近接するアメダス観測地点のデータを使ってふ化最盛期を予測したところ、いずれも誤差は3日以内でした。
- ・ 発育零点10.5、起算日1月1日として、1時間毎の温度データを使用した有効積算温度が287日度となる日がふ化最盛期です。